

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑮ 特許出願公開
 ⑰ 公開特許公報 (A) 昭57-128797

⑯ Int. Cl.³
 C 11 D 1/66

識別記号 廷内整理番号
 7419-4H

⑯ 公開 昭和57年(1982)8月10日

発明の数 1
 審査請求 未請求

(全 4 頁)

④自動車用洗浄剤組成物

②特 願 昭56-13858

②出 願 昭56(1981)2月3日

⑦発明者 小島一見

松戸市新松戸3丁目328番地

⑦発明者 秋本新一

町田市金森1793-3

⑦出願人 日本油脂株式会社

東京都千代田区有楽町1丁目10

番1号

⑦代理人 弁理士 浅野豊司

明細書

1. 発明の名称

自動車用洗浄剤組成物

2. 特許請求の範囲

A 一般式(1)で示されるアミンオキシド 0.05

~10重量%、

B 一般式(2)で示される非イオン性界面活性剤、

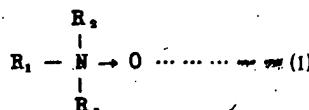
0.05~4.0重量%、

C アルカリビルダー 3.0重量%以下、

D 水、1.0~9.8重量%、

E 添加剤、0~2.0%、

から成ることを特徴とする自動車用洗浄剤組成物。



ただし、R₁は炭素数8~22のアルキル基、アルケニル基の単独あるいはそれらの混合物、R₂、R₃は炭素数1~4のアルキル基、ヒドロキシアルキル基の単独またはそれらの混合物

で、異なつてもよい。

R₁O(C_nH_nO)_a(C_mH_mO)_bH.....(2)

ただし、R₁は炭素数8~22のアルキル基、アルケニル基、アルキルアリール基の単独またはそれらの混合物、a=0~20、b=7~50であり、かつエチレンオキシドの占める割合が、全体の平均分子量に対して40%以上である。また、エチレンオキシドとプロピレンオキシドがともに付加している場合にはブロック付加物でもランダム付加物でもよく、付加の順序も問わない。

3. 発明の詳細な説明

本発明は自動車用洗浄剤組成物に関する。さらに詳しくは、中古自動車等に付着した汚れを洗浄する自動車用の洗浄剤組成物に関する。

従来の自動車用洗浄剤、とくにエンジンルーム等に付着した土ぼこり、油が固着してしまつた部分の洗浄剤としては、アルキルベンゼンフルホン酸ソーダとトリポリリン酸ソーダの混合物、又はノニルフェノールエトキシレート、エ

備でかつ作業環境が悪い)よりも洗浄能力がすぐれていることが認められた。

実施例 6

60000Km 走行した車のエンジンルームを以下に示す組成物 2ℓを原液のまま汚れた箇所にスプレーし、その後、10kg/cm²に加圧した水約40ℓを吹きつけて洗浄した。乾燥後、実施例 1に準じてセロテープを用いて洗浄性を測定した。

組成物

ジビドロキシエチルラウリルアミノキシド

………… 8.0%

P O E (1 0) ラウリルエーテル … 1 0 . 0 %

メタケイ酸ソーダ 9 H₂O 5 0 %

水 7 7 . 0 %

洗浄結果

エンジン部 9 2 . 0 %

内壁(車輪の上方) 9 5 . 0

〃(運転席側) 9 7 . 0

〃(上側) 9 9 . 0